第３学年１組　外国語活動　学習指導案

第３校時　場所　３年１組教室　指導者　福永　真紀子

１　単元名 Unit６ ALPHABET　～オリジナルニックネームタグを作って、Jason先生や友達ともっと仲良くなろう！～

グローバル化が進む社会において、アルファベットは子どもの生活においても身近なものになりつつある。しかし、それ故に身の回りでたくさん使われていることや、どのように活用されているのか、意識的に考えたり理解したりすることは少ない。

本実践では、まず子どもたちが身の回りにある活字体の大文字で表されているものに気付き、アルファベットにはたくさんの種類があることを知る中で、ＡＬＴが自分たちの名前をまだ覚えられていないという事実に出合う。そこで、外国語活動のときに使う、友達やＡＬＴに呼んでほしい名前のネームタグを作るというゴールを設定する。自分や友達の名前を知り、アルファベットの形を認識したり読み方を言ったり聞いたりすることで、大文字の活字体の特徴を捉えることができると考える。また、それをやり取りの中で外国語や日本語を交えながらでも伝える姿を目指したい。そして、アルファベットの形や読み方に慣れ親しむ子どもの姿を願う。

本実践は、活字体の大文字が子どもたちの身近に多く存在していることに気付くことから始まるが、文字の学習で終わってしまうことがないよう、単元中盤には、自分なりに仲間分けしたアルファベットショップを出店する。そこで、自分がネームタグに使いたいアルファベットがどの店にあるかを推測したり、必要なアルファベットを尋ねたり答えたりして集める活動を通して、形や特徴の表現の仕方について再考していくことができるようにする。

２　単元について

⑴ 本単元は、子どもたちの身の回りにある活字体の文字で表されているものがあることに気付き、活字体の大文字とその読み方に慣れ親しむことをねらいとしている。しかし、文字の学習に終始せず、コミュニケーションを図る活動も大切にしたいため、アルファベットの形に注目して、仲間分けをしたアルファベットの店を出店する。自分がタグ作りに使いたいアルファベットがどのお店にあるのか、店の名前から推測し、店員と客になりきってやり取りをする活動を設定する。単元終末には、作ったネームタグを友達に紹介したり、友達に作ったタグを交換したりする活動を取り入れる。そうすることで、自分の名前に使われているアルファベットを知るとともに、友達の名前に使われているアルファベットを知ったり、それぞれの違いのおもしろさやよさに気付いたりすることができるようにしたい。

⑵ 子どもたちはこれまでに”Hello. I’m --.”という挨拶や自己紹介の表現、また、色の表現を学習してきた。本単元では、外国語活動のときに使うネームタグを作る際に、形に着目したアルファベットショップから、自分が使いたいアルファベットを探していったり、出来上がったタグを友達に紹介したりする活動を行う。店員と客のやり取りの活動場面では、欲しいものをたずねたり答えたりする表現をUnit 7 This is for you. で学習するため、この１時間はUnit 7の単元の導入部分としても扱うことができる。

⑶ 本単元に関する子どもたちの実態は次の通りである。(調査人数３４人)

①　外国語活動をたのしんで学習している児童がほとんどである。その理由は「新しいことを知ることがたのしい」、「日本語ではなく他の言葉で話すことがおもしろい」、「仲良くなって仲が深まっていくのがたのしい」と、学習するにあたって肯定的な児童が多い。

　　②　一方で、活動や個別の学習活動において、励ましや声かけ等が必要な児童が２人おり、活動時には配慮を要する。

３　単元の目標

⑴　身の回りには活字体の文字で表されているものがたくさんあることに気付き、活字体の大文字を識別し、文字の読み方に慣れ親しむ。

⑵　相手に伝わるように工夫しながら、自分や友達の名前に使われるアルファベットの大文字を伝え合う。

⑶　自分や友達の名前に使われるアルファベットの大文字を相手に正しく伝えようとする。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 時 | 学習活動 | 指導上の留意点 | 評価規準・評価方法等 |
| １ | １　単元の学習の見通しをもつ。 | 〇　学校の教室や自分たちが使っている道具などから使われているアルファベットを見つけることで、身近に大文字の活字体が使われていることに気付くことができるようにする。  〇　単元の学習計画を子どもと共に立案し、「外国語活動のときに使う名札を作りたい」という子どもの思いや願いを聞くことで、「ＡＬＴや友達に呼んでほしい名前のネームタグを作る」ということを提案する。 | 【思】自分たちの身の回りにあるアルファベットに気付いている。（ポートフォリオ、振り返り） |
| ２  ３  ４ | ２　出店したアルファベットショップで自分が使いたいアルファベットを探したり集めたりすることで、大文字の活字体に親しみ、集めたアルファベットで「オリジナルネームタグ」を制作する。 | 〇　２６種類の大文字を、形や読み方などの特徴を自分なりに捉え、仲間分けすることで、アルファベットの形や種類の認識ができるようにする。  〇　仲間分けしたグループの名前を店の名前にすることで、その店にあるアルファベットの文字が推測できるようにする。  〇　店名から推測しながら文字を探したり集めたりしていくことで、形に焦点を当て、文字への関心をさらに高める。  〇　店員と客という立場のやり取りでは、アルファベットをもらう際に困ったことや分からなかったこと、工夫して解決したこと表現を共有し、伝え方に着目してやり取りができるようにする。（本時） | 【知】２６文字のアルファベットの読み方や形に慣れ親しんでいる。（観察）  【思】【主】店員・客の反応や伝えたい内容に応じて、表現を工夫している。／しようとしている。（観察・振り返り） |
| ５ | ４　自分が作ったタグや、友達のために作ったタグを紹介したりし、単元の学習を振り返る。 | 〇　制作したタグを、グループや全体で簡単な英語や日本語で紹介し合い、互いが使ったアルファベットを見たり、形の特徴や読み方などを考えたりすることで、使った大文字の共通点や使っていない文字などに気付くことができるようにする。  〇　単元全体の学びや思考の変容を言語化させることで、次の単元（Unit 7 This is for you.）の学びに生かすことができるようにする。 | 【思】制作したタグについて、アルファベットの特徴や名前の読み方など、友達に伝えている。（発表・観察）  【主】学習を振り返り、次の学習に生かそうとしている。（振り返り） |

４　指導計画（５時間取り扱い）

５　本時の学習

⑴ 目標

　　ネームタグを作るために、自分が必要なアルファベットを尋ねたり答えたりして探す活動を通して、大文字への興味・関心を高めるとともに、大文字の形や読み方に慣れ親しむ。

⑵　展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 学習活動 | 学習する子どもの思い・姿 |
| １０  １０  ２０  ５ | １　前時の学習を振り返り、本時の学習課題をたてる。  ２　アルファベットの伝え方を考え、やり取りにつなげる。  ３　友達とやり取りをする。  ３　本時の学習を振り返る。 | 〇　前の時間、ほしいアルファベットが全部そろわなかったから、この時間に集めてしまいたいんだけど…困ったな。  〇　店員さんをしたときに、言われたアルファベットが分からないときがあってね。“Ｉ please?”って言われて、どの形だったっけ…って迷っちゃったんだ。  〇　私も。“М”please?って言われたとき、“Ｎ”と似ていて、どうしたら伝わるかなって考えた。  〇　分からないときは、店員さんに何て言ったら伝わるかな？  〇　店員さんになったときも、お客さんに伝わったら嬉しいな。  〇　“Ｋ please.”は言えたんでしょ？それなら、手とか形で表したらいいんじゃない？  〇　「ケー」って言いながらジェスチャーするとか？  〇　“Ｋ”ってちょっと“Ｙ”に似てるから、それを伝えてみてもヒントになるかもよ！  〇　困ったときは、手とか体とかでアルファベットを表してみたり、読んでみたりすれば伝わるかもしれないね。  〇　似てる文字を言ったら「あ～」って思い出すかもしれないよ。  〇　もう一回店員さんに聞いてみよう！  〇　自分がほしいアルファベットがうまく伝わらなかったけど、初めにみんなが言っていたみたいに、体でジェスチャーしたらゲットできた。  〇　ぼくも何て言えばいいか分からないとき、カンタンアルファベットシリーズを使って伝えたらもらえた。  〇　今日、みんなの考えを聞いて、伝え方が他にもあることが分かりました。私はジェスチャーを使ったら、店員さんから“Ok. Here you are.”と伝わったので嬉しかったです。  〇　僕は店員さんのときに、お客さんから言われたアルファベットがどれか分からなくなったけれど、「“Ｆ”に似てる…」って言われて形を思い出しました。だいぶんアルファベットが分かってきてうれしいです。 |



子どもたちはお店屋さんの活動にたのしみつつも、「上手く伝わらなかった」「アルファベットを集められなかった」という思いをもっています。伝え方の表現方法や工夫を見いだしたり考えたりし、アルファベットの形や読み方を考えながら、ネームタグの完成を目指します。

|  |
| --- |
| 主体的・対話的で深い学びを生み出す教師の支援（発問・指示・教具・評価） |
| ○　前時に行ったアルファベットショップのやり取りを振り返り、その中で困ったことを感じている子どものやり取りや振り返りを基にして、そのときやってみた表現をもう一度言ってみたり、店員に伝わりづらかったやり取りを子どもと一緒に再現したりする。  〇　「お客さんに“I”please?と言われたんだけど、“I”がどれだったか忘れちゃってどうすればいいか迷った」「“М”please? と言われたけど“N”と似ていて分からなかった」という子どもの困り事が表出した場面をより詳しく全体で共有することで、表現や伝え方について考えることができるようにする。  ○　「店員さんに上手く伝わらなかった」「お客さんがどのアルファベットを言っているのか分からなかった」という発言に対して、どのようにすれば自分がほしいアルファベットをもらったり、渡したりすることができるかを問うことで、「こんなふうに伝えてみたら分かるかも。」「もっと表現を工夫したら集められそう。」といった発言を引き出し、表現の工夫に焦点を当て、本時の課題を設定する。  自分も、友だちも分かるようにするためにはアルファベットのことをどう伝えたらよいだろう。  〇　“M”の伝え方について、手や体を使ってジェスチャーをしながら形や特徴を伝えたり、似ている文字と関連させて伝えたりするという工夫を出し合うことで、次の活動の中で使える表現を考えることができるようにする。  〇　相手によく伝わるように工夫された表現を板書する際、表現方法や言語表現の工夫について、文字と併せて図やイラストを用いてまとめておくことで、やり取りの中で困ったときにそこに立ち返ることができるようにしておく。  【教材・教具】  〇　アルファベットの気付きや特徴などを書き留めた模造紙  〇　アルファベットステッカー  〇　前半・後半で店員、客のやり取りを交代して活動をしたあと、「やり取りをしてみてどうだった？」と子どもたちに問うことで、活動を振り返って伝わった表現や工夫したことが分かるようにする。  〇　単元を通して子どもが表現していたアルファベットの気付きや仲間分けの特徴などを模造紙に書き留め、子どもが見ながらそれを意識し活用できるように掲示する。  【評価】  〇　やり取りの中でアルファベットの形や読み方を使ったり、言語表現、非言語表現を用いたりするなどの工夫を行いながら、アルファベットカードがあるか尋ねたり答えたりしようとしている。（行動観察・振り返り）  〇　振り返りでは、「やり取りの中で気付いたこと」「ほしいアルファベットを尋ねるときにどんなことに気を付けたり、意識したり、やってみたりしたのか」について振り返りを記述するよう伝える。  〇　互いの学びや気付き、嬉しかったこと、活動時の表現のよさや工夫などをいくつか交流し、自分の表現や思いと比較することで、友達の表現や考え方のよさ、違いに気付くことができるようにする。 |